

施策カルテ

1 施策の位置付け

| | | | | | | | |
|--------------|---------------------------|----------------|---------------|-------------|---|------------------|--|
| 総合計画 政策の柱 | 市民の安全で健康な笑顔あふれる暮らしを支えるために | 政策名 (基本施策名) | 愛情豊かに子どもたちを育て | 取組の 基本方向 | 「愛情豊かに子どもたちを育て」ため、子どもの社会的な養育環境を整備するための「児童健全育成環境の充実」、すべての子育て家庭が安心して子どもを育てられる環境の整備を進めるための「子育て支援の充実」、ひとり親家庭等の自立と安定した生活を確保するための「ひとり親家庭等への支援充実」、子どもの人権を尊重するための「子どもへの虐待防止対策の強化」に、重点的に取り組まします。 | 政策目標 (基本施策目標) | 家庭、地域、事業者、行政等の十分な連携のもとで、市民が安心して子どもを生み育てています。 |
|--------------|---------------------------|----------------|---------------|-------------|---|------------------|--|

2 施策の現状と達成状況、課題の抽出

| ①施策名 | 子育て支援の充実 | | | | | | H19:基準 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24:目標 | 達成率 (%) |
|---------------|-----------------------------|--|--|--|--|--|-----------------------------|------|------|------|------|--------|------------|
| | 施策指標(単位) | | | | | | | | | | | | |
| ②施策目標 | すべての子育て家庭が安心して子育てに取り組んでいます。 | | | | | | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 達成率 |
| ③施策を 取巻く環境 | 国・県等の 動向 | 国においては、子育て支援の総合的なビジョンである「子ども・子育てビジョン」を策定や、「新待機児童ゼロ作戦」を推進するなど、国をあげて子どもと子育てを応援する社会の実現に取り組んでいる。また、「子ども・子育て新システム」による新制度を検討しており、すべての子どもへの良質な育成環境を保障し、子どもを大切に育てる社会などを目指している。 | | | | | 指標① (総合計画 に基づく指 標) | 47 | 40 | 33 | 48 | 0 | 0.0% |
| | | 社会経済環境の悪化により、保育所入所希望者の増に伴う、待機児童数の増加など、子育て環境が厳しさを増している。幼稚園と保育所の一体化を進める上で、国の機関が一元化されていない。また、「子ども・子育て新システム」については、サービス給付方法等、具体的な対応が示されていない。 | | | | | 指標② | 50.2 | 81.0 | 86.5 | 87.1 | 87.1% | |
| | 外部意見 その他 | 平成22年3月の社会福祉審議会からの提言において、家族や地域の養育力が低下するなど、子育て・子育ての環境は厳しさを増しており、このような社会環境に対応するため、「子どもの心や体の健康づくりの支援」、「妊娠・出産の支援体制」、「家庭や地域における子育て支援」などの総合的・一体的な取組を図る必要がある。 | | | | | 指標③ | | | | | | |
| | | | | | | | 指標④ (特記事項) | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|----------------------------|-------|------------------|-----------------|-----------------|-------------------|---|---|--------------------|----|---|-----------------------------|---|---|
| ⑤市民意識調査結果 | 市民の 施策満足 度 | 23.8% | 市民の 施策重要 度 | 69.8% | 達成度 (単年度目標) | 達成している (90%以上) | 概ね達成 (70%~90%未満) | ● | 達成していない (70%未満) | 説明 | 既存園の増改築や民営化に伴う定員増を図るなど、待機児童解消に向けた計画的な取組を実施しているが、保育園入所待機児童が解消されていない。 | ⑦現状分析と課題の抽出 (③⑤⑥を踏まえた分析) | 成果が見られる点 | 保育所において115名の定員増を図るとともに、保育所新設、認定こども園整備事業者の選定を行うなど、平成24年度の待機児童解消に向け、保育所整備等を着実に推進している。赤ちゃんの駅設置箇所の増加など、子育て支援に対する企業などの理解や協力が得られつつある。 |
| ⑥施策の評価 | 必要性・緊急性 (住民・社会ニーズ) | ● | 増加している | 横ばい | 減少している | 説明 | 仕事と子育て支援の両立に伴う待機児童解消や子育て不安の解消に対する各種サービスの充実が求められている。 | | | | | | | |
| | 適切性 (適切な事務事業 の選択、実施) | ● | 十分である | 不十分な事業が 一部ある | 不十分な事業が 複数ある | 説明 | 子育てや子どもの育ちに関して、各ライフステージに応じた様々なサービスの提供を行っている。 | | | | | | | |
| | 有効性 (政策目標への効果) | ● | 十分である | やや不十分である | 不十分である | 説明 | 保育や養育環境の充実、子育てへの悩みや不安等の軽減など、多様なニーズに対応するために有効である。 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 改善の必要な点 | 保育園入所希望者がさらに増加し、今後も保育ニーズの高まりが予想されることから、計画的な保育所等の整備を実施していく必要がある。また、育児に関する講座や相談事業などの類似事業について、統廃合や関係事業との連携を図りながら効果的に推進する必要がある。 | |

3 今後の取組方針

| | | | | |
|-------------|-------|--|---------------|--|
| ⑧取組の 考え方 | 総論 | すべての子育て家庭が安心して妊娠・出産をし、仕事と生活の調和を実現しながら愛情を持って子育てができる環境の整備を行う。また、地域や学校、企業、行政など社会全体が連携し、子どもや子育て家庭を支えあう社会の構築に努める。 | ⑨政策評価 会議意見 | <ul style="list-style-type: none"> 子育て環境が厳しさを増していることから、すべての子育て家庭が安心して妊娠・出産をすることができ、仕事と生活の調和を実現しながら愛情を持って子育てができる環境の整備を行う。また、地域や学校、企業、行政など社会全体が連携し、子どもや子育て家庭を支えあう社会の構築に努める。 平成24年度の待機児童解消に向け、保育所の新設や既存保育園の増改築にあわせた定員増を図るとともに、認定こども園の設置促進により保育サービス量の拡大を図る。 育児に関する講座や相談事業など類似事業が存在することから、それらの事業について統廃合や関係事業との連携・役割分担を図りながら、効果的に事業を推進する。 |
| | 重点事業 | 平成24年度の待機児童解消に向け、保育所の新設や既存保育園の増改築にあわせた定員増を図るとともに、認定こども園の設置促進により保育サービス量の拡大を図る必要がある。 | | |
| | 見直し事業 | 国が検討している「子ども・子育て新システム」の動向を見据え、事業の優先化・重点化を図り、中期的な子ども施策のあり方を検討する必要がある。また、子育て支援のコーディネートなどの在宅育児をはじめとした子育て家庭に対する支援の効果的な仕組みづくりについて検討する必要がある。「すこやか親子講座」と「地区における健康教育実施」や「訪問指導」と「養育支援訪問指導」など、類似事業の統廃合や関係事業との連携を図りながら効果的な推進を図る必要がある。 | | |

4 施策を構成する事務事業一覧

| No. | 事業名 | 対象者 | 開始年度 | 活動指標等 | H21 | H22 | H21 | H22 | 重点度 (A~C) ※施策目標 に対する 寄与度 | 事業の 方向性 | 施策目標を達成するための取組方針 |
|-----|------------------|--------------|------|---------------|-------|-------|-------|-------|--------------------------------------|------------|--|
| | | | | | 目標値 | 目標値 | 事業費 | 事業費 | | | |
| | | | | | 実績値 | 実績値 | (千円) | (千円) | | | |
| 1 | ファミリーサポートセンター事業費 | 協会会員、依頼会員 | H13 | ファミリーサポート会員数 | 1,800 | 1,800 | 7,907 | 7,907 | A | 継続 | 平成26年度に会員数2,000人を目指すとともに、依頼会員の預かりニーズに協力会員が応じることができるよう、制度の周知を行うとともに協会会員の拡大を図り、ファミリーサポートセンターの機能を充実・強化する。 |
| | | | | | 1,852 | 1,952 | | | | | |
| 2 | 子育て応援団事業 | 子ども・大人・地域・企業 | H21 | 赤ちゃんの駅延べ設置箇所数 | 100 | 130 | 2,352 | 4,870 | A | 継続 | 赤ちゃんの駅について、設置施設が一定程度増加したことから、様々な広報媒体を活用した効果的な周知を図る。また、本市の子育て支援に関するホームページである宮っこ子育て・子育て応援ナビについては、内容の充実や新たな機能の追加を検討するとともに、あらゆる機会を活用して周知を行う。 |
| | | | | | 98 | 158 | | | | | |

様式 2

| | | | | | | | | | | | | |
|----|------------------------|--------|---------------------------------------|-----|-----------------|---------|---------|-----------|-----------|---|----|--|
| 3 | こんにちは赤ちゃん事業 | | 生後4か月までの乳児とその保護者 | H19 | 訪問実施率 | 100.0 | 100.0 | 23,655 | 23,133 | A | 継続 | 出産後の育児支援や虐待の未然防止に有効な事業であることから、全戸訪問による面接率の向上と要支援者への継続的な支援を実施するため、訪問指導員の確保や資質向上のための取組などの充実を図る。 |
| | 担当課 | 子ども家庭課 | | | 訪問面接率 | 98.9 | 94.7 | | | | | |
| 4 | こども医療費扶助 | | 小学6年生までの児童 | S47 | 助成件数 | 833,154 | 833,154 | 1,815,739 | 1,950,297 | A | 継続 | すべての子育て家庭が安心して子育てを行えるよう、子どもの病気の早期発見及び早期治療を促し健康増進を図るとともに、子育て世帯における子どもの医療費を助成することで、経済的負担を軽減する。 |
| | 担当課 | 子ども家庭課 | | | | 879,200 | 958,580 | | | | | |
| 5 | 妊婦一般健康診査及び二次（精密）健康診査実施 | | 妊婦 | H8 | 利用率 | 91.0 | 91.0 | 324,364 | 405,155 | A | 拡大 | 妊娠中の異常の予防や早期発見、早期治療など妊婦の適正な健康管理と健診費用の負担軽減を図るため、公費負担上限額を引き上げ、健診内容の充実を図る。 |
| | 担当課 | 子ども家庭課 | | | | 79.8 | 81.2 | | | | | |
| 6 | 1歳6か月児健康診査 | | 生後1歳6か月～2歳未満の児 | H8 | 受診率 | 96.0 | 96.0 | 15,085 | 14,945 | A | 継続 | 子どもの健康状態の確認や育児相談の場としてのニーズも高い。市医師会等との連携を強化し、受診率の向上と健康診査の充実を図る。また、健康診査を未受診の子どもに対する支援体制を検討する。 |
| | 担当課 | 子ども家庭課 | | | 1歳6か月児二次健康診査受診率 | 94.3 | | | | | | |
| 7 | 3歳児健康診査 | | 生後3歳0か月～4歳未満の児 | H8 | 受診率 | 91.0 | 92.5 | 15,146 | 15,452 | A | 継続 | 子どもの健康状態の確認や育児相談の場としてのニーズも高い。市医師会等との連携を強化し、受診率の向上と健康診査の充実を図る。また、健康診査を未受診の子どもに対する支援体制を検討する。 |
| | 担当課 | 子ども家庭課 | | | 3歳児二次健康診査受診率 | 92.0 | | | | | | |
| 8 | 先天性股関節脱臼検診 | | 生後3～4か月児 | S53 | 受診率 | 90.0 | 91.0 | 34,736 | 33,126 | A | 継続 | 先天性股関節脱臼の早期発見と適切な治療を受けるため、こんにちは赤ちゃん訪問指導や乳児健診などの機会に受診を奨励し、受診率の向上を図る。 |
| | 担当課 | 子ども家庭課 | | | | 88.2 | | | | | | |
| 9 | 乳児健康診査 | | 乳児 | S60 | 4か月児健康診査受診率 | 95.0 | 95.5 | 55,180 | 53,353 | A | 継続 | 子どもの健康状態の確認や育児相談の場としてのニーズも高い。関係機関との連携を強化し、受診率の向上と健康診査の充実を図る。また、健康診査を未受診の子どもに対する支援体制を検討する。 |
| | 担当課 | 子ども家庭課 | | | 10か月児健康診査受診率 | 95.1 | | | | | | |
| 10 | 食育の推進 | | 3歳児健康診査受診者のうち、肥満度1～3と判定された児及び保護者 | H20 | 親と子の食生活相談実施回数 | 58 | 58 | 1,343 | 1,294 | A | 継続 | 3歳児健康診査受診時に肥満と判定された子どもと保護者に対し、事業の周知と参加を呼びかけ、適切な食生活に関する理解と生活改善が図れるよう支援する。 |
| | 担当課 | 子ども家庭課 | | | 親と子の食生活相談参加者数 | 58 | 55 | | | | | |
| 11 | 妊産婦医療扶助 | | 妊産婦 | S48 | 助成件数 | 30,757 | 32,748 | 164,139 | 158,748 | A | 継続 | 妊産婦に対する妊娠異常などの早期発見や早期治療を促し、健康増進を図るため、制度の周知徹底を図る。また、妊産婦の医療費を助成することで、経済的負担を軽減する。 |
| | 担当課 | 子ども家庭課 | | | | 32,784 | 33,435 | | | | | |
| 12 | 不妊治療費助成費扶助 | | 特定不妊治療を受けた夫婦 | H16 | 助成件数 | 400 | 400 | 90,066 | 101,576 | A | 継続 | 特定不妊治療費の助成については、所得制限や助成対象治療の制限などがあり、子どもを希望する多くの夫婦が助成を受けることができるよう、国の動向を探りながら助成対象治療の充実を図る。 |
| | 担当課 | 子ども家庭課 | | | | 435 | 471 | | | | | |
| 13 | 2歳児歯科健康診査 | | 2歳5か月の幼児 | S63 | 受診率 | 71.0 | 72.0 | 5,868 | 5,722 | A | 継続 | むし歯や口腔内の病気等の予防や早期発見を図り、むし歯のない子どもを増やすため、健診の必要性を周知徹底し、受診率の向上を図る。 |
| | 担当課 | 子ども家庭課 | | | う歯罹患率 | 71.5 | 70.3 | | | | | |
| 14 | 公立保育園整備事業（単独） | | 出産予定の妊婦とその家族、保育所入所児童、在家庭の親子 | S27 | 整備改善された施設数 | 1 | | 16,947 | | A | 継続 | 多様化する保育ニーズや子育て支援に対応するため、計画的に地域の拠点施設（基幹保育園）をはじめとした公立保育園の整備を行う。また、当面存続予定の公立保育園について、耐震性の確保を図る。 |
| | 担当課 | 保育課 | | | | 1 | | | | | | |
| 15 | 児童福祉施設整備費補助金 | | 社会福祉法人 | H8 | 補助金交付件数 | 2 | 5 | 117,834 | 610,792 | A | 継続 | 待機児童解消を図るための保育所の整備は急務であることから、保育所の整備方針整備計画に基づいた施設の整備促進を図る。 |
| | 担当課 | 子ども未来課 | | | | 1 | 3 | | | | | |
| 16 | 民営化推進事務費 | | 民営化を受託しようとする事業者や民営化の対象となっている公立保育園の保護者 | H14 | 民営化実施園数 | 2 | 1 | 124 | | A | 継続 | 民営化対象の公立保育園に入所している園児の保護者に十分な理解を得られるよう説明会や意見交換会を実施し、円滑な民営化の推進を図る。 |
| | 担当課 | 保育課 | | | | 2 | 1 | | | | | |
| 17 | 地域子育て支援拠点事業 | | 概ね3歳までの乳幼児とその保護者 | H11 | 実施箇所数 | 7 | 7 | 17,836 | 18,468 | A | 継続 | 子育てに対する不安の解消や負担の軽減を図るため、相談、指導、援助事業の充実を図るとともに、国の動向を注視しつつ、施設機能の強化策等の検討を行う。 |
| | 担当課 | 保育課 | | | | 7 | 7 | | | | | |
| 18 | 地域子育て支援拠点事業費補助金 | | 地域子育て支援拠点事業を実施する私立保育所 | H13 | 実施園数 | 5 | 5 | 14,339 | 19,110 | A | 継続 | 子育てに対する不安の解消や負担の軽減を図るため、より身近な施設において、相談、指導、援助事業を実施できるよう設置箇所数の増加を図る。 |
| | 担当課 | 保育課 | | | | 4 | 5 | | | | | |
| 19 | 延長保育促進事業補助金 | | 延長保育事業を実施する私立保育園 | S56 | 実施園数 | 72 | 71 | 314,105 | 318,349 | A | 継続 | 保護者の就労形態の多様化に対応するため、民間事業者に対し理解を求めながら、延長保育事業の充実を図る。 |
| | 担当課 | 保育課 | | | | 71 | 70 | | | | | |
| 20 | 保育所地域活動事業補助金 | | 地域活動事業を実施する私立保育園 | H1 | 実施園数 | 63 | 63 | 12,277 | 12,141 | A | 継続 | より多くの地域住民が参加し、より地域に根ざした保育所運営が可能となるよう事業の充実を図る。また、地域の需要に応えられるよう、できる限り多くの園での事業実施となるよう事業者へ理解を求めめる。 |
| | 担当課 | 保育課 | | | | 60 | 61 | | | | | |
| 21 | 家庭的保育事業（保育ママ制度） | | 常時保育に欠ける生後3ヶ月から3歳未満の乳幼児を養育している家庭 | H20 | 家庭的保育所箇所数 | 3 | 3 | 7,899 | 14,629 | A | 継続 | 家庭的保育所の設置に拡大に向け、地域のバランスを考慮しつつ、家庭的保育者の確保のため、広報紙等を活用した周知徹底を図る。また、保育所と同様の施設機能を有することを広く市民に対して周知する。 |
| | 担当課 | 保育課 | | | | 3 | 3 | | | | | |
| 22 | 特定保育促進事業補助金 | | 特定保育事業を実施する私立保育園 | H1 | 実施園数 | 38 | 38 | 26,480 | 22,950 | A | 継続 | 多様化するニーズに応じることができるよう、また、制度改正により利用希望者の増加が見込まれることから、計画的な実施箇所数の拡大を図る。 |
| | 担当課 | 保育課 | | | | 32 | 31 | | | | | |

様式 2

| | | | | | | | | | | | | | |
|-------|--------------------|--------|-----------------------------|-----|--------------|--------------------|--------|--------|--------|---|-----|---|--------|
| 23 | 一時預かり事業補助金 | | 一時預かり事業を実施する私立保育園 | H21 | 実施園数 | 1 | 2 | 0 | 1,580 | A | 継続 | 短時間保育ニーズに応じることができるよう、民間事業者の理解を得ながら、事業実施園の拡大を図る。 | |
| | 担当課 | 保育課 | | | | 0 | 1 | | | | | | |
| 24 | 発達支援児保育事業費補助金 | | 発達支援児保育事業を実施する私立保育園 | S54 | 実施園数 | 39 | 41 | 27,376 | 29,618 | A | 継続 | 発達支援児が増加傾向にある中、状況に応じた適切な保育を受けることができるよう、発達支援児保育の充実を図る。 | |
| | 担当課 | 保育課 | | | | 39 | 41 | | | | | | |
| 25 | 休日保育事業費補助金 | | 休日保育事業を実施する私立保育園 | H11 | 実施園数 | 1 | 1 | 1,900 | 1,886 | A | 継続 | 休日保育のニーズに対応できるよう、実施園の拡大を図るための方策を検討する。 | |
| | 担当課 | 保育課 | | | | 1 | 1 | | | | | | |
| 26 | 病児・病後児保育事業費 | | 病児、病後児対応型の施設 | H8 | 実施施設数 | 3 | 3 | 19,666 | 23,915 | A | 継続 | 病気や病後のため集団保育が困難な子どもが保育サービスを利用できるよう、広く事業の周知を図る。また、受け入れ体制の充実のため、医師会等への情報提供や医院への戸別訪問などにより実施施設の拡大を図る。 | |
| | 担当課 | 保育課 | | | | 3 | 4 | | | | | | |
| 27 | 子育て支援短期利用事業 | | 児童及びその保護者 | H6 | 延べ利用人数 | 230 | 182 | 733 | 995 | B | 継続 | 保護者が病気やその他の理由により居宅において子どもを養育できなくなるなど、必要なときに安心して支援を受けることができるよう、事業の周知を図る。 | |
| | 担当課 | 子ども家庭課 | | | | 115 | 173 | | | | | | |
| 28 | 小慢・養育・育成管理システム運営 | | 小児慢性特定疾患・養育医療・育成医療の対象児 | H17 | 使用料 | 1,422 | 1,485 | 1,422 | 1,485 | B | 継続 | 適正な医療費助成を実施するため、受給者管理に関するシステムの効率的、効果的な活用を図る。 | |
| | 担当課 | 子ども家庭課 | | | | 1,422 | 1,485 | | | | | | |
| 29 | 未熟児グループ支援事業 | | 未熟児とその保護者 | H12 | 実施回数 | 3 | 3 | 5 | 4 | B | 継続 | 未熟児を持つ保護者の育児不安の軽減を図るため、未熟児として生まれた子どもの障がいや発達などについての不安や悩みを共有できる場として、育児サークルの協力を得ながらより有効な事業の実施を図る。 | |
| | 担当課 | 子ども家庭課 | | | | 参加人数 | 2 | | | | | | 3 |
| | | | | | | | 60 | | | | | | 70 |
| 56 | 52 | | | | | | | | | | | | |
| 30 | 幼児のむし歯予防事業（フッ化物塗布） | | 満2歳児から就学前の幼児 | S44 | 受診者数 | 12,500 | 12,500 | 9,171 | 9,154 | B | 拡大 | むし歯予防事業として、フッ化物塗布の必要性を周知し、受診率の向上に努めるとともに、6歳臼歯のむし歯予防のため、平成23年度から、従前の未就学児までの対象年齢を、小学校1年生まで拡大する。 | |
| | 担当課 | 子ども家庭課 | | | | 受診率 | 9,271 | | | | | | 10,291 |
| | | | | | | | 25.0 | | | | | | 25.0 |
| 18.7 | 20.9 | | | | | | | | | | | | |
| 31 | 妊産婦の歯科健康診査 | | 妊産婦 | S57 | 受診率 | 50.0 | 50.0 | 8,630 | 8,654 | B | 継続 | 妊娠届出時や産婦人科での健診時の保健指導などにおいて、歯科健診の重要性を周知し、受診率の向上に努める。 | |
| | 担当課 | 子ども家庭課 | | | | 30.1 | 31.3 | | | | | | |
| 32 | 3歳児・親と子のよい歯のコンクール | | 3歳児とその保護者 | H8 | 3歳児応募者数 | 70 | 70 | 570 | 575 | B | 継続 | 口腔衛生の普及啓発のため、他事業との連携など事業のあり方の見直しを進めながら、コンクールの周知徹底を図り、参加者の増加に努める。国主催の「よい歯のコンクール」への市の代表選出を兼ねたコンクールとして引き続き実施していく。 | |
| | 担当課 | 子ども家庭課 | | | | 親と子の応募者数 | 29 | | | | | | 19 |
| | | | | | | | 10 | | | | | | 10 |
| 3 | 3 | | | | | | | | | | | | |
| 33 | 一般健康相談 | | 妊産婦、乳幼児とその保護者、思春期の子どもとその保護者 | S29 | 健康相談（毎日）利用者数 | 8,500 | 8,500 | 200 | 210 | B | 継続 | 相談窓口の周知徹底を図り、利用しやすい相談体制を整えることで、より多くの市民が利用できるよう努める。 | |
| | 担当課 | 子ども家庭課 | | | | 健康相談（月1回）利用者数 | 8,546 | | | | | | |
| | | | | | | | 2,500 | | | | | | 2,500 |
| 2,315 | | | | | | | | | | | | | |
| 34 | 性と健康に関する思春期の健康教育 | | 小・中・高校生など | H12 | 出前講座の実施回数 | 10 | 15 | 194 | 57 | B | 継続 | 学校や教育委員会、保健予防課等と連携を図りながら、小中高生に性と健康に関する正しい知識や情報を提供し、若者自身の性と健康を守る自己決定能力の育成を図る。 | |
| | 担当課 | 子ども家庭課 | | | | 参加者数 | 13 | | | | | | 23 |
| | | | | | | | 2,000 | | | | | | 2,500 |
| 2,411 | 3,555 | | | | | | | | | | | | |
| 35 | すこやか親子講座（子育て講座） | | 乳児とその保護者 | H16 | 実施回数 | 73 | 73 | 451 | 444 | B | 見直し | 育児に関する正しい知識の提供などを通して育児不安の軽減をより効果的に図れるよう、すこやか親子講座を含めた地域拠点で実施している健康教育事業の見直しを検討する。 | |
| | 担当課 | 子ども家庭課 | | | | 参加人数 | 66 | | | | | | 62 |
| | | | | | | | 1,400 | | | | | | 2,300 |
| 2,202 | 2,093 | | | | | | | | | | | | |
| 36 | 地区における健康教育実施 | | 乳幼児とその保護者 | S29 | 実施回数 | 58 | 58 | 159 | 175 | B | 見直し | 育児に関する正しい知識の提供などを通して育児不安の軽減をより効果的に図れるよう、すこやか親子講座を含めた地域拠点で実施している健康教育事業の見直しを検討する。 | |
| | 担当課 | 子ども家庭課 | | | | 参加人数 | 104 | | | | | | 101 |
| | | | | | | | 1,740 | | | | | | 1,740 |
| 3,173 | 3,031 | | | | | | | | | | | | |
| 37 | 訪問指導 | | 主に乳幼児・児童とその保護者 | S29 | 訪問人数 | 1,200 | 1,200 | 62 | 65 | B | 見直し | 保健師等の訪問による支援を必要とする全家庭に対し、関係機関等と連携を図りながら、個々のニーズに合わせた支援を実施する。また、養育支援訪問指導の対象である、低体重児の訪問についても、母子の訪問事業として一体的に取り組んでいけるよう検討する。 | |
| | 担当課 | 子ども家庭課 | | | | 要訪問件数に対する訪問指導実施の割合 | 1,180 | | | | | | 1,200 |
| | | | | | | | 100.0 | | | | | | 100.0 |
| 86.5 | 84.2 | | | | | | | | | | | | |
| 38 | 養育支援訪問指導 | | 低出生体重児等とその保護者 | H8 | 養育支援連絡票件数 | 180 | 180 | 334 | 327 | B | 見直し | 低出生体重児やハイリスクケースが増加しており、こんにちは赤ちゃん事業などの他事業との十分な連携を図り、養育支援が必要な家庭への支援を行う。 | |
| | 担当課 | 子ども家庭課 | | | | 延訪問数 | 149 | | | | | | 148 |
| | | | | | | | 170 | | | | | | 170 |
| 130 | 119 | | | | | | | | | | | | |
| 39 | 地区における栄養相談 | | 妊産婦、乳幼児とその保護者等 | H12 | 実施回数 | 84 | 84 | 714 | 693 | B | 継続 | 栄養に関して必要な相談が受けられるよう、相談窓口の周知と栄養士を配置して専門相談に対応するとともに、離乳食教室などの事業と連携を図り実施する。 | |
| | 担当課 | 子ども家庭課 | | | | 相談者数 | 84 | | | | | | 80 |
| | | | | | | | 575 | | | | | | 650 |
| 590 | | | | | | | | | | | | | |

様式 2

| | | | | | | | | | | | | | |
|---------|--------------------|--------|---|-----|-------------------|---------------|-------|-----------|-----------|---|----|--|-------|
| 40 | ママパパ学級運営事務費 | | 妊婦とその夫 | S41 | ママパパ学級実施回数 | 74 | 74 | 1,719 | 1,646 | B | 継続 | 夫婦で参加できるよう、会場を利用しやすい場所に絞るなど参加者の利用ニーズに即した実施を図る。 | |
| | 担当課 | 子ども家庭課 | | | 参加者数 | 3,440 | 3,470 | | | | | | |
| | | | | | | 2,715 | 2,657 | | | | | | |
| 41 | 保育士による訪問指導事業 | | 保育園・幼稚園に未就園の乳幼児及び保護者 | H17 | 訪問延べ人数 | 244 | 308 | 0 | 0 | B | 継続 | 様々な場を活用した事業の周知徹底を図るとともに、対象者のニーズを把握するための効果的な手法の検討と、訪問支援の充実を図る。 | |
| | 担当課 | 子ども家庭課 | | | | 249 | 193 | | | | | | |
| 42 | 事業所内保育施設設置助成事業 | | 市内に事業所を有する事業主又は事業主団体 | H20 | 事業所内保育施設数 | 2 | 1 | 0 | 0 | B | 継続 | 仕事と子育ての両立支援を実現するためには、労働者の保育ニーズに柔軟に対応することが望ましいことから、今後も事業者への効果的な周知徹底を行い、施設の設定促進を図る。 | |
| | 担当課 | 保育課 | | | | 0 | 0 | | | | | | |
| 43 | 夜間保育事業費補助金 | | 夜間保育事業を実施する私立保育園 | H14 | 実施園数 | 1 | 1 | 2,460 | 2,460 | B | 継続 | 夜間保育のニーズに対応できるよう、実施園の拡大を図るための方策を検討する。 | |
| | 担当課 | 保育課 | | | | 1 | 1 | | | | | | |
| 44 | なかよしクラブ事業 | | 心身に遅れがあると思われる在家庭の概ね2歳以上の児童 | H8 | 実施園数 | 3 | 3 | 6,594 | 6,609 | B | 継続 | 心身の発達に遅れがあると思われる在家庭の児童の保護者に対し、適切な相談や指導などを実施するため、保育士に対する専門性の高い研修の実施などを行うとともに、利用者の増加を図る。 | |
| | 担当課 | 保育課 | | | | 3 | 3 | | | | | | |
| 45 | 保育園運営費 | | 認可保育所入所児童とその保護者 | S27 | 全体待機児童数 | 30 | 20 | 39,806 | 35,086 | B | 継続 | 整備方針・整備計画に基づく公立保育園の民営化を諮るとともに、保育所入所定員の弾力化の活用などにより、待機児童の解消を図る。 | |
| | 担当課 | 保育課 | | | | 33 | 48 | | | | | | |
| 46 | 乳幼児保育担当保育士増員費補助金 | | 1歳児を入所させていて、保育士を本市独自の3:1の基準で配置している私立保育所 | S48 | 補助交付園数 | 55 | 56 | 292,775 | 280,294 | B | 継続 | 質の高い保育サービスが提供できる体制を維持するため、今後も継続し、特に1歳児の処遇向上を図る。 | |
| | 担当課 | 保育課 | | | | 55 | 56 | | | | | | |
| 47 | 保育士等人材確保費補助金 | | 私立保育所 | S48 | 補助交付園数 | 55 | 56 | 113,560 | 121,978 | B | 継続 | 保育の質の維持・向上を図るため、今後も継続し、経験豊富な保育士等を安定的な確保を図る。 | |
| | 担当課 | 保育課 | | | | 55 | 56 | | | | | | |
| 48 | 調理員増員費補助金 | | 調理員を増員している私立保育所 | S48 | 補助金交付園数 | 19 | 18 | 29,332 | 30,212 | B | 継続 | アレルギーを持つ児童などに対しきめ細かな対応ができるよう、調理員を加配し、調理業務の充実を図る。 | |
| | 担当課 | 保育課 | | | | 18 | 19 | | | | | | |
| 49 | 民間保育所代替職員雇用費補助金 | | 代替職員を雇用している私立保育所 | S47 | 補助金交付代替職員延べ人数 | 172 | 164 | 5,288 | 3,628 | B | 継続 | 安定した保育サービスの提供を行うため、保育所職員の休暇等の代替職員を雇用し、保育の質の維持を図る。 | |
| | 担当課 | 保育課 | | | | 101 | 89 | | | | | | |
| 50 | 日本スポーツ振興センター事業費補助金 | | 私立保育所 | S49 | 補助金交付件数 | 5,700 | 5,890 | 689 | 722 | B | 継続 | 児童の災害時に必要な給付が図れるよう、共済への加入を促進する。 | |
| | 担当課 | 保育課 | | | | 5,114 | 5,332 | | | | | | |
| 51 | 嘱託医委嘱費補助金 | | 私立保育所 | S54 | 補助金交付園数 | 55 | 56 | 13,092 | 13,423 | B | 継続 | 児童の健康管理を行うため、保育園入所児童の健康診査及び歯科検診を実施する。 | |
| | 担当課 | 保育課 | | | | 55 | 56 | | | | | | |
| 52 | 民間育児施設運営費補助金 | | 一定基準を満たす認可外保育施設 | H11 | 実施箇所数 | 12 | 10 | 7,967 | 5,622 | B | 継続 | 認可保育所の補完的役割を担う認可外保育施設の需要が増すことが見込まれることから、認可外保育施設の充実を図る。 | |
| | 担当課 | 保育課 | | | | 8 | 5 | | | | | | |
| 53 | 保育事務費 | | 保育所を利用する乳幼児の保護者 | S27 | 入所措置児童数（延べ数） | 90,000 | | 28,327 | | B | 継続 | 保育事務を効率的に実施し、保育所入退所に係る事務の適正化及び保育料の適正な徴収を行う。 | |
| | 担当課 | 保育課 | | | | 87,033 | | | | | | | |
| | | | | | | 口座振替加入率 | 100.0 | | | | | | 100.0 |
| 54 | 児童福祉施設小規模整備費補助金 | | 社会福祉法人 | H8 | 補助金交付件数 | 4 | 4 | 6,683 | 3,483 | B | 継続 | 老朽化への対応や施設機能の充実など、保育における施設環境の向上を図る。 | |
| | 担当課 | 子ども未来課 | | | | 3 | 2 | | | | | | |
| 55 | 児童福祉施設利子補給金 | | 社会福祉法人 | H8 | 補助金交付件数 | 11 | 14 | 3,447 | 4,021 | C | 継続 | 待機児童の解消のためには保育所整備は急務であり、施設整備の促進と安定的な保育所運営のために助成を行う。 | |
| | 担当課 | 子ども未来課 | | | | 14 | 18 | | | | | | |
| 再掲 | 宮っこフェスタ交付金 | | 子ども・大人・地域・企業 | H14 | 事業参加団体数（参加・協賛・協力） | 45 | 45 | | | | 継続 | 地域全体で青少年を育成する市民意識の醸成を図るため、子どものために活動を行っている市民、団体、企業との連携を強化し、企業の企画力や機動力を活かした青少年が参画しやすいイベントの創出を図る。また、青少年の参画機会を増やし、やりがいや達成感を見出せる仕組みを検討する。 | |
| | 担当課 | 子ども未来課 | | | | 183 | 162 | | | | | | |
| 再掲 | 放課後子ども教室推進事業 | | 児童及び地域住民 | H19 | 宮っ子ステーション実施校区数 | 16 | 26 | | | | 継続 | 体験活動や異年齢交流は子どもの健全育成に重要であり、また、事業を地域住民が運営することで、地域の教育力の向上が図れるため、施策目標への貢献度は高い。今後とも子どもの家等との一体的な実施を目指しながら、宮っ子ステーション事業として更に事業を推進していくこと。 | |
| | 担当課 | 生涯学習課 | | | | 9 | 17 | | | | | | |
| | | | | | | 宮っ子ステーション実施日数 | 574 | | | | | | 900 |
| | | | | | 589 | 1,210 | | | | | | | |
| 施策事業費合計 | | | | | | | | 3,706,747 | 4,381,038 | | | | |